

兵庫県宝塚市におけるウスグロチビツツハムシとヨツボシアカツツハムシの記録

宇野宏樹

筆者は、2021年に兵庫県宝塚市において、カワラヨモギ *Artemisia capillaris* をホストとするハムシ2種を採集したので報告する。いずれの種も、兵庫県における近年の記録はあまりないと思われる。

1. ウスグロチビツツハムシ *Cryptocephalus fulvus* (Goeze, 1777)

本種は、日本では栃木県や神奈川県、山梨県、岡山県、島根県、兵庫県などで記録されているツツハムシであり、その生息地は局所的とされる(高橋, 1998; 雛倉, 2011; 吉富・林, 2016)。兵庫県下では、「ウスグロスジツツハムシ」の和名で、揖保川流域や西宮市武庫川、三木市口吉川町で記録されている(高橋, 1998)。なお、同文献には「兵庫県下での分布記録は、たいへん少ない。もっと調査する必要がある」とも記されているが(高橋, 1998)、その後の追加記録も恐らくないと思われる。筆者は、本種を宝塚市で2021年に採集したので報告する。

5exs(写真1), 兵庫県宝塚市。4. VII. 2021. 筆者採集・保管。



写真1 ウスグロチビツツハムシ(兵庫県宝塚市産)。



写真2 ヨツボシアカツツハムシ(兵庫県宝塚市産)。

宝塚市のカワラヨモギ自生地にて、本種を確認し、記録用に採集した。本種の個体数は多かったが、カワラヨモギの生えている範囲が非常に狭かったため、地名の詳細は伏せることにした。カワラヨモギを夏季に調べれば、他地域でも見つかる可能性はあると思われる、今後の調査が望まれる。

2. ヨツボシアカツツハムシ *Coptocephala orientalis* (Baly, 1873)

本種は、本州、四国、九州に分布するツツハムシの1種である(神奈川県, 2006)。兵庫県下での本種の記録は、原記載の記録があるほかには、「宝塚市武庫川[木元1964]」「西宮市武庫川[木元1964]」「神戸市兵庫区鳥原(1ex, 1. IX. 1942)」など数例の記録しかない(宝塚市, 1993; 高橋, 1998)。高橋(1998)では、「分布状況がよくわからないが、8~9月頃が成虫の見られる時期と思われる、調査が不十分な種のように思われる」とされている。本種の兵庫県における近年の記録はないか、あっても少ないと思われるので、以下に、2021年の宝塚市での記録を報告する。

5exs(写真2), 兵庫県宝塚市。4. VII. 2021. 筆者採集・保管。

前種と同じく、早朝、河川敷の砂地に生えたカワラヨモギについている本種を採集した。採集地は前種と同じである。個体数は前種ほど多くはなかった。

末筆ながら、採集に同行してくださった安達誠文氏及び同氏を介して、上記のツツハムシ2種についての文献および生息状況についてご教示くださった篠原忠氏に厚くお礼申し上げる。

○参考文献

- 雛倉正人, 2011. ウスグロチビツツハムシの山梨県韮崎市における記録. さやばねニューシリーズ, 2: 40.
神奈川県, 2006. 神奈川県レッドデータブック2006 Web版. <http://conservation.jp/tanzawa/rdb/rdblists/detail?spc=311> (2021年7月閲覧).
高橋寿郎, 1998. 兵庫県のハムシ(2) (兵庫県昆虫相資料・337). IRATSUME, 22: 25-34.
宝塚市, 1993. 宝塚の昆虫IV 甲虫目(II). 224pp. 宝塚市教育委員会.
吉富博之・林成多, 2016. ツツハムシ類2種の島根県における記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 19: 180.

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)